

事業報告書

団体名 徳島市両国本町商店街振興組合

事業名	商店街のみんなと防災を学び命を守る防災プロジェクト	
事業の 実施内容	時期	令和4年9月～令和5年2月
	場所	徳島市両国本町商店街一帯
	実施内容	<p>1)商店街地域住民対象の防災講習会 ・テーマ「東北震災、過去の災害を振り返って」 令和4年9/23(木)昼の部13～14時、夜の部19～20時、[場所:味の城別館] 今回の協働事業担当課である防災対策課吉田課長様による災害復興支援体験の講演会、質疑応答、アンケートを実施。 *参加人数/昼の部17名、夜の部16名</p> <p>2)両国まち歩き、ワークショップ ・テーマ「まちあるきでみつける私たちにできること」 10/8(土)13時半～15時半 [味の城別館] *参加12名 10/13(木)14時半～16時半 [ウッドアイビス] *参加8名 10/18(火)14時半～16時半 [ウッドアイビス] *参加6名 10/23(日)10時～12時、13時半～15時半 [味の城別館] *参加各13名 ・土日はまちあるき前に徳島ママ防災士の会 Switch 代表瀬戸様によるミニ防災講習会を行い参加者の防災意識の共有を図った。防災士をリーダーにグループ分けをし、商店街の店舗を回り、インタビューシートに沿って店主と会話しながら災害時を想像し自分達ができることや不安に感じていることを具体的に引き出したり提案を行った。その後、ワークショップで聞き取り内容を発表、意見交換した。(アンケート実施) ・平日は徳島大学環境防災研究センターの学生達に協力を得て店主へのインタビュー、ワークショップを行った。</p> <p>3)共助マップ作りワークショップ 11/11(金)19時～21時 [ウッドアイビス] *参加11名 11/18(金)19時～21時 [ウッドアイビス] *参加8名 11/23(水祝)10時～12時 [味の城別館] *参加13名 ①商店街、行政、Switchメンバー、地域の防災士、介護支援専門員、栄養士、学生など多様な参加者からまち歩きで集めた情報をまとめ、防災に役立つ豆知識、近隣避難ビル、災害を想像する記事などを精査していった。マップの名称は【みんなの安心安全マップ】にした。 ②近隣の避難ビル(徳島市役所、内町コミセン、中央郵便局)まで実際に徒歩で計測した。(11/23午後)</p> <p>4)「みんなの安心安全マップ」完成及び配布 ①令和5年2/10(金)、完成したマップをPRするためプレスリリースをし、Switchのメンバーと商店に配布、お客様へのお渡しをお願いした。また、マップ作成に関わっていただいた皆様や地域住民、自治体にも配布した。</p>

	<p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害復興支援の体験談を聞くことで防災事業に前向きに取り組む姿勢が感じられた。 ・店主に商店街以外の皆さんがインタビューすることで、より多くの情報が引き出せた ・自分の街の良さをあらためて再発見、コミュニケーションが深まった ・もしもの時何ができるか、何が不安かをみんなで考えて、共有し見える化することで一体感が生まれた。 ・体験談や防災士の話から新たに防災情報を調べたり備蓄品を購入した店舗もあった。 ・内町まちづくり協議会からインタビューシートのまとめ一覧表の作成や講演会など配布用チラシのコピー、備蓄品提供の協力を頂いた。 ・取材メディア～NHK、徳島新聞、朝日新聞、エフエムびざん、全国商店街支援センター
	<p>役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> *両国本町 講演会・まちあるき(講習会、インタビュー、ワークショップ、アンケート)計画実施、防災マップデザイン、印刷発注、配布 *防災対策課 事業計画助言、講演会会場設営・講師及び参加、まちあるき(講習会、インタビュー、ワークショップ、アンケート)参加、マップ防災情報掲載内容の精査、広報 PR、 *防災士 事業計画実施全サポート、講演会参加、まちあるき(講習会講師、インタビューチームリーダー、ワークショップ進行参加)、インタビューシート作成、防災マップ監修、マップ配布パレード参加、配布
	<p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当課長による事業開始時の防災講習会を組合員や地域住民対象に行い災害支援の現体験談を聞くことで地域コミュニティの重要性やいざという時に「何ができるか」を想像するきっかけになるよう工夫した。 ・店主にインタビューシートを事前に配り予習してもらうことで短時間でリラックスして答えてもらえるように、また商店街以外の人からの多様な視点でインタビューしてもらうことで「出来ること」の幅が広がる工夫をした。 ・聞き取りしたインタビューシートを掲示し、マップ作りの経過を見せ少しでも街の人に興味を持ってもらえるようにした。 ・マップには店主の顔写真を入れ、顔の見える繋がり安心を感じてもらえるようにした。 ・各店の可能な支援と不安要素を載せると共に防災に役立つ豆知識、備え、緊急時対応の情報を載せることで日常にみる機会の増えるマップにした。 ・限られたスペースでより多くの情報や機能を QR コードを掲載することで検索出来るようにした。 ・災害復興支援を継続している県出身アーティストのコラムとしてコメントと写真を掲載し現実を想像できるようにした。
<p>今後の事業展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街にマップ配布後のアンケートを行い感想を聞き、今後に生かしていく。 ・マップに掲載した避難ビル(中央郵便局、内町コミセン)への避難訓練を行う(昼夜設定) ・商店街、地域、行政と連携し、マルシェの開催日に合わせ商店街一帯を歩行者天国にし地域住民や来街者が楽しみながら防災を取り入れた体験型のイベントを開催し顔の見えるコミュニティを作っていく。 ・商店街からの発信が自助共助の防災対策のフォーマットになり、この仕組みを他の地域にも波及するよう伝えていく。

※この内容について、別様式にて報告書を作成している場合は、添付をもって代えることができません。